

里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

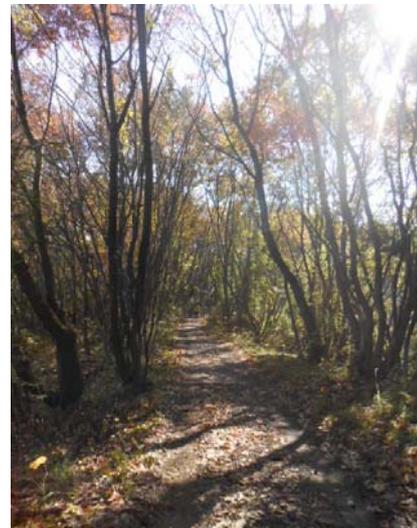
分類	地域活性化／環境教育・エコツアー
手法名	里山における幼児子ども教室の実施
主体	NPO法人大地
背景(地域の課題)	<p>長野県北部に広がる丘陵には、代々積み重ねてきた山里の暮らしによって、人と自然が織りなす文化的景観・里山が残されている。近年、各地の里地里山では、高齢化や過疎化により、自然と集落文化の存続が危ぶまれている。飯綱町の森では、里山保育活動を契機にさまざまな主体が連携して、子どもたちの森、昆虫の森などの保全活用活動が行われている。</p>
手法／方策の詳細	<p>1) 里山の緩やかな保全管理 「子ども目線からの里山づくり」(写真1)を念頭に、ミズナラ、コナラ、ブナ等在来植生の雑木林は藪化しないための最小限の管理を行うにとどめている。カラマツ、スギ等の人工林についても父親等の有志を中心に立ち枯れ木等の間伐を行う程度の緩やかな管理を行っている。 キハダやヤマザクラをはじめとする植栽を行っており(写真2)、子どもに対しては開けた空間の提供を、母親向けのプログラムとしては草木染めなどの活用を提供している。 緩やかな傾斜地は、野芝を適正な長さで刈り込むなど子どもたちが遊べる空間を提供するとともに、クローバーなどが生えている部分については意図的に残すなどして、飼育動物のえさ場の確保に配慮した管理方法をとっている。</p> <p>2) 里山資源を活かした保育活動 里山資源を子どもたちが活用しやすく整備・管理することで、次のように保育活動に利用している。 ①雑木林(写真3): 山菜・キノコ類の採取、カブトムシ採りや山遊びのフィールド。 たき火や炭焼きの材料採取。 ②ナラ・カラマツ等: 野外料理などに利用するかまど、五右衛門風呂、園舎の薪ストーブなどへの燃料供給(冬季間、園舎は薪のみで暖房している)。 ③ハチクやイチョウ: 子どもたちでもタケノコ掘りや銀杏拾いを楽しめるフィールド。 ④野芝: 子どもたちが遊べるフィールド、クローバーなどについては飼育動物のえさに利用している。</p> <p>3) 地域活性化の波及効果 当活動を契機にしたIターン者が見られるようになり里山林との新たななかかわりが地域の活性化につながっている。</p>
手法・技術的視点	<p>集落近傍の身近な里山林を緩やかな管理によって、子どもたちが活用できるフィールドとして整備。 里山の多様な資源活用を持続的に行いながら、様々な保育プログラムはもちろん保護者など大人に向けた実践活動をも実現している点が着目される。</p>

幼児子ども教室大地の里山フィールド構成要素



実行プロセス・運営体制のイメージ

図・写真資料



左上: 写真1
里山で遊ぶ子どもたち
左下: 写真2
植林されたキハダの森
右 : 写真3
緩やかに管理され四季の美しい雑木林

参考資料

NPO法人大地ホームページ
<http://www.ne.jp/asahi/daichi/nagano/>